



# 大正っ子

帯広市立大正小学校

Obihiro Taisyuu

Elementary School

令和7年11月28日

文責：堀口 初枝



NO.14

## 令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

第6学年を対象に行われた全国学力・学習状況調査の本校の結果につきまして、概要をお知らせいたします。本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながら、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

今年度の調査は、国語・算数・理科の3教科です。全教職員で結果を共有し、学年の発達段階に応じた学力向上の取組を進めていきます。

なお、個人の結果につきましては、1学期に返却しております。

### 調査結果

**【国語】** 平均正答率は、全国・全道平均を大きく上回りました。

- 無回答率が非常に低く、粘り強く取り組む様子が見られました。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるなど、漢字の習得に成果が見られました。
- 自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えたりすることに成果が見られました。
- △目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題が見られました。

**【算数】** 平均正答率は、全国・全道平均を上回りました。

- 無回答率が低く、粘り強く取り組む様子が見られました。
- 小数や異分母分数の加法の計算をするなど、「数と計算」の領域で正答率が高かったです。
- △目的に応じた適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述するなど、記述式問題に課題が見られました。

## 【理科】平均正答率は、全国・全道平均を大きく上回りました。

- 無回答率問題がないこと、「解答時間が余った」「理科の勉強が好き」「理科の勉強は得意」「理科の授業がよくわかる」と回答している児童が多いことなどから、理科の学習に前向きに取り組んでおり、理解度が高いことがわかりました。
- 評価の観点「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の両観点共に、高い成果が見られました。
- △問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題が見られました。

## 【児童質問紙】

- 基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ご飯等を含）が身に付いている児童の割合が高く、安定した家庭生活を送っている児童が多いと考えられます。
- 3教科とも、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答する児童の割合が非常に高く、諦めずに取り組む様子が見られました。
- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」の各質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が非常に高かったです。
- ICT 機器を使って学習することで、学習内容がよくわかったり、友達と協力して学習を進められたりすることに、肯定的に回答した児童の割合が非常に高かったです。
- △家庭学習の習慣は身に付いているが、時間が短い傾向が見られます。

## 今後、学校としての重点的に取り組んでいくこと

- 課題があった領域・項目について、学習該当学年を含め全学年で日常の授業の中で適切な指導を継続していきます。
- 記述問題に全学年で継続的に取り組み、解答方法に慣れさせると共に、解答の必要条件についても明確に指導していきます。
- 計算そのものはできているが、単位のつけ忘れや必要のない単位を付けて答えるなど、答え方の間違いが見られたので、日常から各教科で意識させるように指導していきます。
- ICT 機器を効果的に利活用した授業づくりの実践を行い、効果的・効率的な学習を進めていきます。
- 朝の活動や家庭学習なども含めて、個に応じた指導の更なる充実を目指します。